

2018年9月期 第2四半期 決算説明会 質疑応答の要旨

2018年4月26日に開催した第2四半期決算説明会（機関投資家・アナリスト・報道関係者向け）における主な質疑応答の要旨は下記の通りとなります。

◆ネットマーケティング事業について

Q 1. 国内のネットマーケティング事業の状況について

A 1. これまでリソースを投入してきたアプリ広告市場に加え、WEB 広告市場においても、継続性の高いプロジェクトを進め、顧客ミックスを改善していくよう取り組んでいる。
また、インターネット広告市場は競争の激しい市場であるため、競争力強化に向け、人材への投資を先行しており、強固な組織基盤の構築を進めている。

Q 2. ブランド広告の状況について

A 2. 着実に成果が出始めている。決算説明会資料 P17 に掲載したグラフのとおり、前 Q が海外における繁忙期であったため 1 - 3 月は反動が出た一方で、国内については需要期であるため伸びている。当社ならではの運用型広告を中心としたブランド広告市場の開拓には手ごたえを感じており、このスケールアップによって全体の収益成長率の上昇を見込んでいる。

Q 3. 前期にあった大口顧客の出稿減の影響について

A 3. 前期の大口顧客の出稿減の影響は拡大しておらず、YonY では徐々に影響が薄まっている。

Q 4. 米国における Facebook の個人情報流出報道による影響について

A 4. 現状、当問題に関する報道によって当社の収益に影響が出ていることはなく、Instagram や LINE 等、ソーシャル広告については引き続き堅調に推移している。

◆メディアコンテンツ事業について

Q 5. GANMA!の PV、及びアプリ収益の状況について

A 5. PV は堅調に推移しており、広告収益の伸びもそれに連動している。プロモーション費用をコントロールしつつ、新規ユーザの獲得効率や継続率の改善に注力をしていく。広告商品の開発が進んでいることと、需要期ということもあり 3 月のアプリ収益は過去最高を更新しており、足元のモメンタムは良好である。

Q 6. 海賊版サイトによる GANMA!への影響について

A 6. ユーザの可処分時間の奪い合いという観点において一部影響はあるかもしれないが、GANMA!の収益に対する直接的な影響はほぼないと認識している。一方、海賊版サイトの影響でマンガを読むユーザ層の裾野は拡大しているように思える。海賊版サイトが閉鎖されたことで、健全なサービスである GANMA!を選ぶというユーザも一定数いるのではないかとみている。

Q 7. GANMA!のユーザ層の動向について

A 7. 前 Q に開示をしたユーザ属性について大きな変化はなく、10~30 代が主要なユーザ層である。直近では 1,000 万 DL を超え、より一層若年層に広く認知されてきている。今後さらにダウンロード数が伸びていく中でユーザ層もより広がっていくと見込む。

Q 8. GANMA!における外部著作権作品の扱い、考え方について

A 8. 現状は数%程度が外部の作品であり、今後も比率が大きく変わることは想定しておらず、自社オリジナル作品を中心に据えるという方針は変わらない。外部作品についてはユーザに喜んでいただける作品を調達するという一方で、数よりも質を重視していくスタンスである。また、当スキームは他社の出版社・版元・作家から、自社メディアを持たずに、作品をプロモーションが実施できるということでポジティブに捉えられている。

Q 9. 2018 年 9 月期下期の広告宣伝費の見込みについて

A 9. 上期で約 5 億円の実績に対し、下期で約 3 億円のプロモーション投資を見込んでいる。広告宣伝費はコントロールしながらもプロダクトを伸ばしていける手ごたえがある。

◆人材投資について

Q 1 0. 人件費を含む人材への先行投資による効果や来期以降の方針について

A 1 0. 当社がこれまで推し進めてきた人事制度改定や働き方改革の効果もあり、優秀な人材の採用が順調に推移している。その分人件費が先行している状況にあるが、質・規模の両面で組織基盤の充実を図ることで、中期での収益向上と競争力強化に繋がると確信している。

以 上